

時代のニーズを捉えて着実に成長

高度な粘着技術を有するメーカーと特殊紙の抄造技術および剥離紙・剥離フィルムの製造技術を有するメーカーとの垂直統合。それが、1990年の3社合併による「リンテック」誕生の大きな意義です。同時にこの3社合併が、その後のグローバル展開のスタートとなりました。



ガムテープ

液晶用光学機能性
フィルム1927年
創業

1960年代

ラベル用粘着紙・粘着フィルムの
製造・販売を開始

1970年代

自動車関連などの工業分野に
粘着事業の業容を拡大

1986年

半導体関連分野に本格参入

1990年4月

リンテック株式会社
誕生

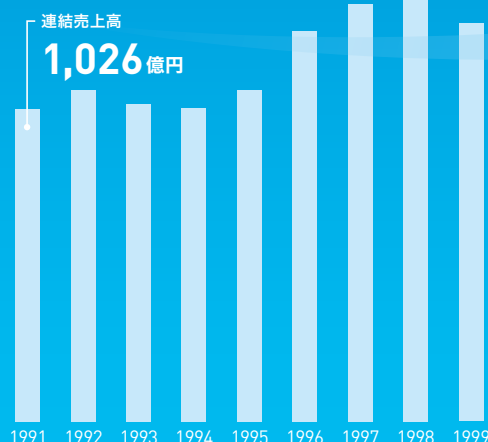
FSK株式会社

+

四国製紙株式会社

+

創研化工株式会社



1990年まで

1927年に包装用ガムテープの製造・販売で創業した当社は、1960年代に入り現在の主力事業であるラベル用粘着紙・粘着フィルムの製造・販売を開始しました。その後、自動車関連などの工業分野に粘着事業の業容を拡大し、1986年には半導体関連分野に本格参入。そして1990年の3社合併によって、今日における各種粘着製品や特殊紙および剥離紙・剥離フィルムなどのリーディングカンパニーとしての事業基盤を築きました。

1990年代

1991年に液晶関連分野に本格参入。1994年にはインドネシアにラベル用粘着紙・粘着フィルムの生産子会社を設立しました。1995年には、前年に開設したシンガポールの営業所を販売子会社として現地法人化。欧州でもオランダに販売子会社を設立するなど、事業のグローバル化を推進しました。一方、国内においては、1995年に粘着製品メーカーの買収や研究所の新棟建設を行うなど、事業基盤のさらなる強化を図りました。



2000年代

2000年にマレーシアに電子部品関連の生産子会社を設立したのを皮切りに、2002年から2004年にかけて韓国と台湾に半導体関連や液晶関連などの生産子会社を設立。加えて、アジアや欧州などに半導体関連の販売子会社を相次いで設立したことにより、エレクトロニクス関連事業が当社グループの成長を大きく牽引しました。そのほか、ラベル関連事業においても2002年に中国に生産子会社を設立するなど、グローバル展開を加速させました。

2010年代

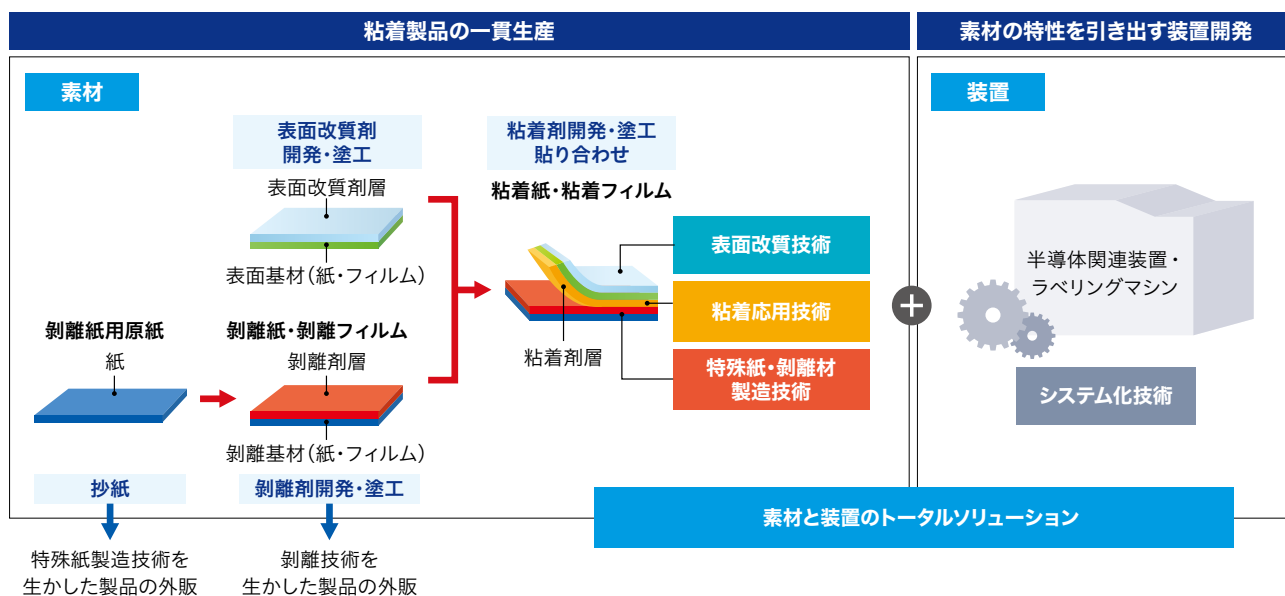
2010年に国内のラベル用粘着紙・粘着フィルムの主力生産拠点である龍野工場(兵庫県)の再構築を完了させたほか、2015年には研究所(埼玉県)の先端技術棟を新設するなど、国内において生産・研究開発体制の強化を図りました。海外では、2011年にタイに生産子会社を設立。そして2016年には、北米のラベル関連市場で高いシェアを誇るマックタック・アメリカ社など欧米3社を相次いで買収し、新たな成長のステージを迎えました。

成長を支える三つの強み

1990年の3社合併以降、安定的な成長を続けてきたリンテック。粘着応用技術をはじめとする基盤技術を生かした粘着製品の一貫生産体制、幅広い製品分野で構築してきた独自の地位、そして海外市場への積極展開が当社グループの成長を支える強みといえます。

1 粘着製品の一貫生産を実現

当社では粘着剤の開発・塗工だけでなく、剥離紙用原紙の生産から紙・フィルムへの剥離剤塗工、さらには粘着製品のベースとなる表面基材の改質加工までも行うことで、粘着製品の一貫生産体制を構築しており、主力の粘着事業において、品質やコスト、納期面における優位性を生み出しています。また、自社の粘着製品の特性を最大限に引き出す関連装置も開発・生産することで、素材と装置のトータルソリューションを提供しています。



四つの基盤技術

表面改質技術

紙やフィルムの表面に化学的・物理的処理を施すことで、その性能を高めたり、新たな機能を付加したりします。

特殊紙・剥離材製造技術

独自の抄紙技術や塗工、含浸、貼合技術などを駆使し、従来の紙の概念を超える特殊機能紙や高付加価値材を開発します。

粘着応用技術

粘着剤、各種基材の開発およびその複合技術により、「貼る」「剥がす」という粘着製品の基本機能の応用領域を拡大します。

システム化技術

機械・装置のシステム化をはじめ、素材の特性を生かした高度なシステム構築で、先進のソリューションをご提案します。

2 幅広い分野で独自の地位を構築

当社が製造・販売する製品の多くは消費者からは見えづらい中間消費材ですが、最終製品にとって欠かせない部材として提供しており、ニッチな市場で多くのトップシェア製品を有しています。また、顧客ニーズに合わせた多品種・小ロット・短納期対応ができるのも特徴で、カラー封筒用紙などの特殊紙からラベル用粘着製品、さらには半導体の製造工程で使用されるテープ・装置まで、幅広い分野において他の追随を許さない独自の地位を構築しています。

ニッチな市場で高いシェアを誇る製品



カラー封筒用紙



ラベル用粘着製品

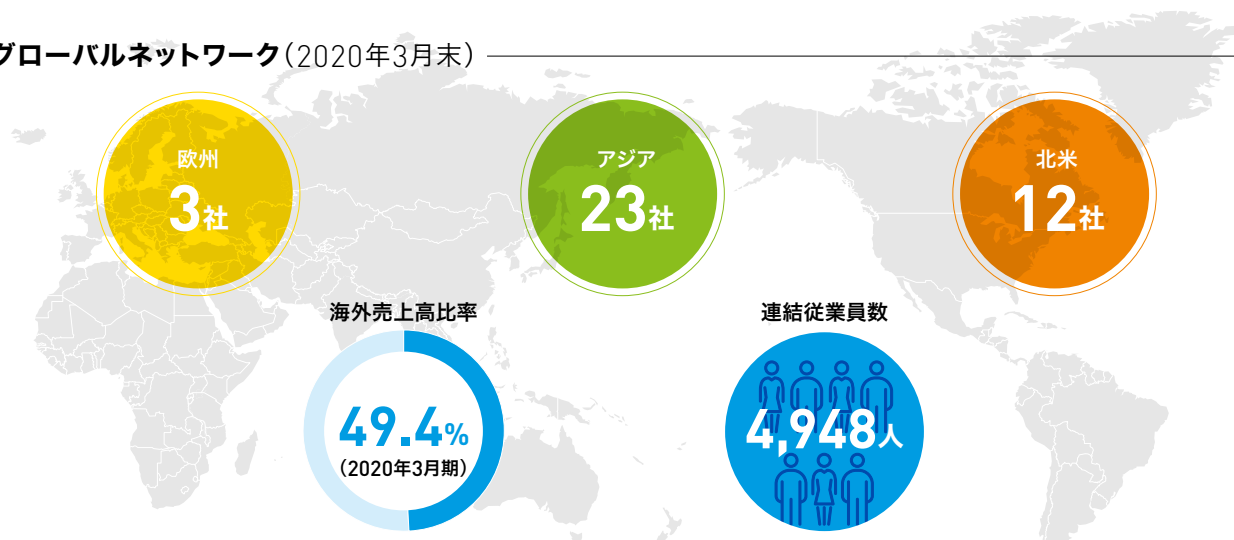


半導体関連粘着テープ・装置

3 積極的に事業のグローバル化を推進

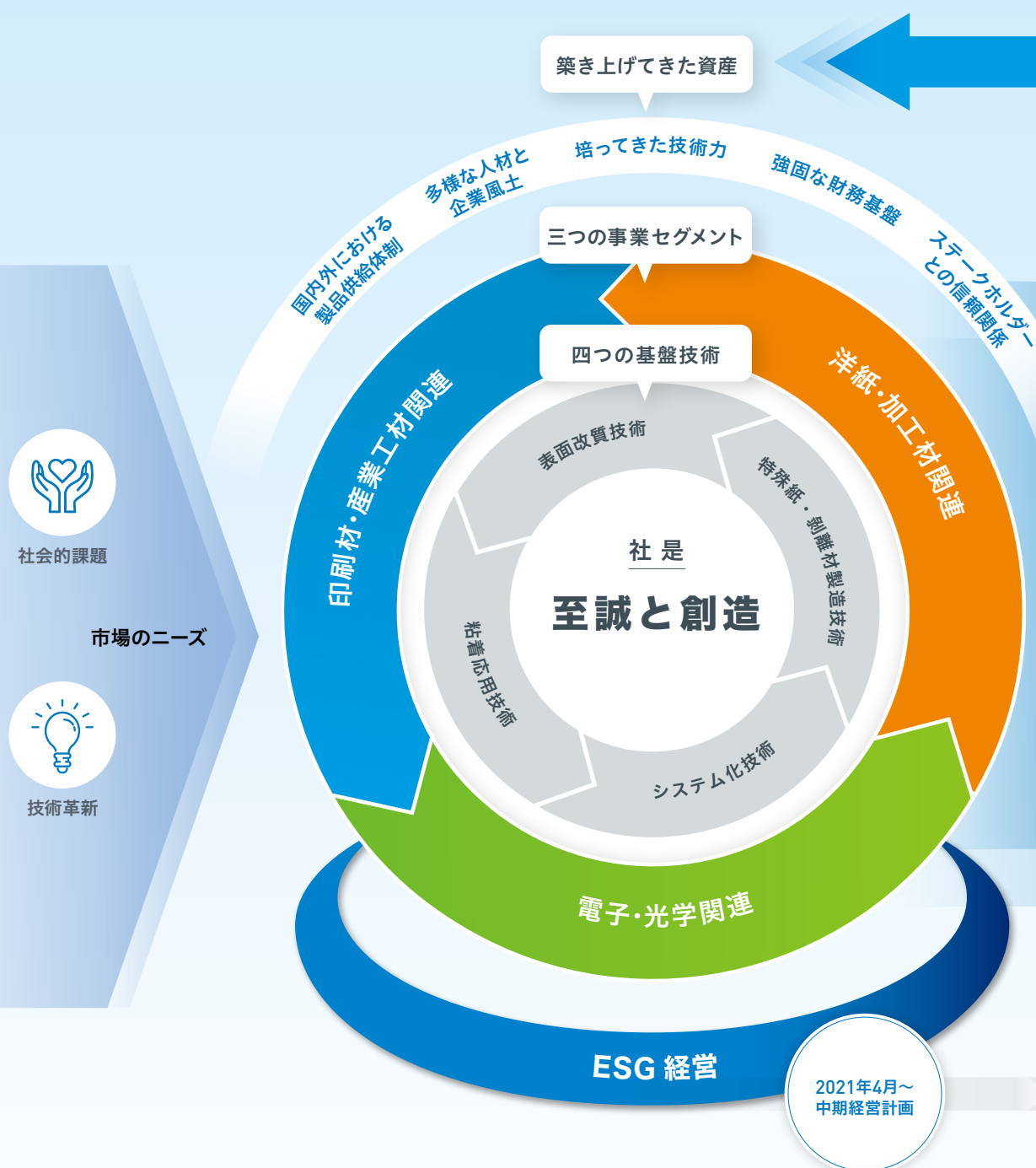
国内市場の縮小や顧客企業の海外への生産移転が進む中、当社ではお客様により近いところで製品を生産し、安定的に供給していく「メード・イン・マーケット」の考え方を基本に事業のグローバル化を推進してきました。現在では19の国と地域に38の連結子会社と約5,000人の連結従業員を有し、海外売上高比率は約50%にまで高まっています。今後、未進出地域への展開も視野に、グローバル生産・販売体制のさらなる強化を図っていきます。

グローバルネットワーク(2020年3月末)



リンテックの価値創造プロセス

創業から現在に至るまで、リンテックグループは数多くの資産を築き上げてきました。社是「至誠と創造」の下、これらの資産を活用してさまざまな製品を開発・製造・販売し、社会や顧客の課題の解決に貢献しています。ここから生み出された利益をステークホルダーに還元するとともに、将来への投資を行うことで、さらに新たな価値を創造していく。当社グループではこの価値創造プロセスを通じて、社会と共に持続的な発展を目指しています。



還元・投資

社会や顧客の課題解決を通じた

価値創造

社会とリンテック双方の
持続的な発展SUSTAINABLE
DEVELOPMENT GOALSSDGsの達成への
貢献2024年4月～
中期経営計画2027年4月～
中期経営計画

2030年

パフォーマンスハイライト

リンテック株式会社および連結子会社（環境関連情報はリンテック単体）の数値です。
各年度の表示は3月31日に終了した期を表しています。

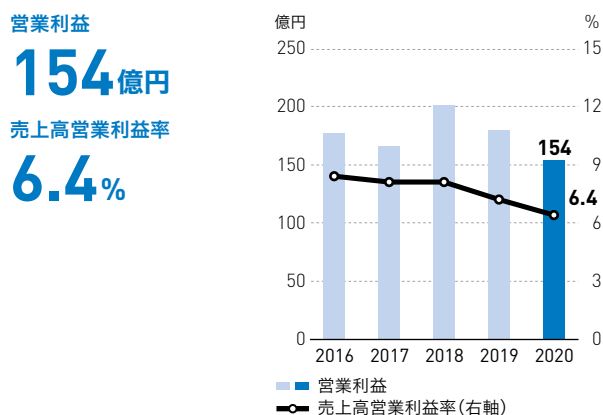
財務情報

売上高



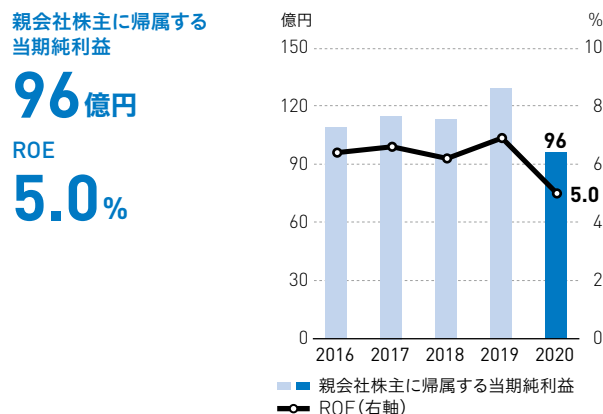
期前半のエレクトロニクス関連市場の低迷などで、アドバンスドマテリアルズ事業部門やオプティカル材事業部門の売り上げが減少したことなどにより、売上高は減少しました。

営業利益／売上高営業利益率



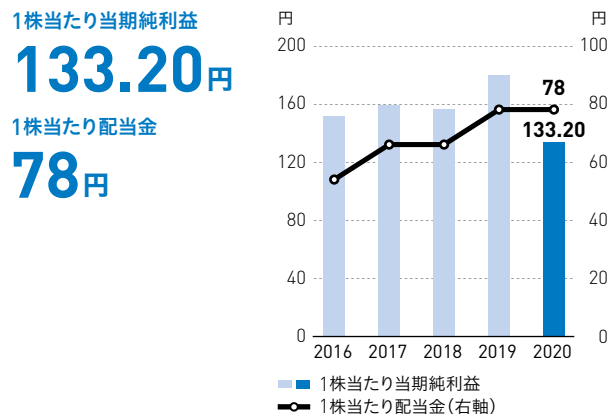
主要原材料であるパルプ価格の下落はありましたが、販売数量が減少したことなどによって営業利益は減少し、売上高営業利益率も悪化しました。

親会社株主に帰属する当期純利益／ROE



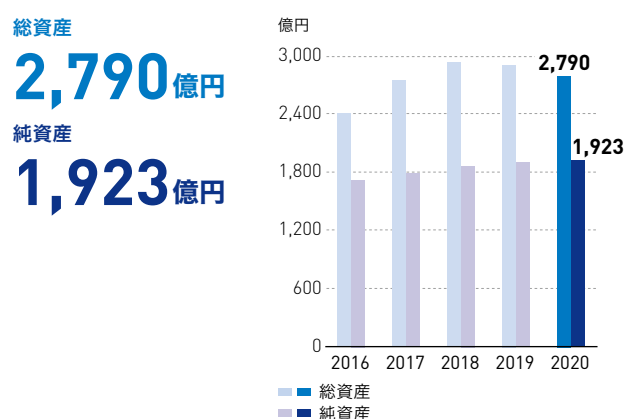
営業利益の減少に加え、特別損失として米国子会社におけるのれんの減損損失を計上したことなどによって親会社株主に帰属する当期純利益は減少し、ROEも悪化しました。

1株当たり当期純利益／1株当たり配当金



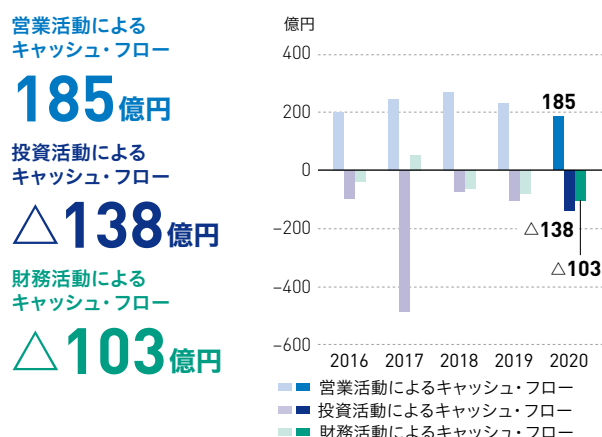
1株当たり当期純利益は減少しましたが、1株当たり配当金は前期と同じ78円としました。なお、配当性向は58.6%となりました。

総資産／純資産



長期借入金の返済による現金及び預金の減少やのれんの減少などによって総資産は減少しましたが、利益剰余金の増加などによって純資産は増加しました。なお、自己資本比率は68.7%となりました。

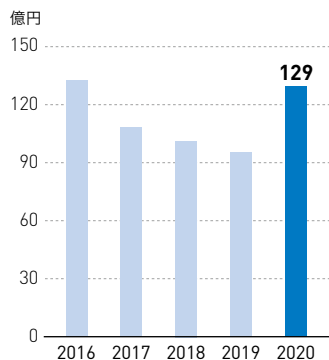
キャッシュ・フロー



営業活動によるキャッシュ・フロー(CF)は「+」、投資活動によるCFは有形固定資産の取得などにより「-」、財務活動によるCFは配当金の支払いなどにより「-」となりました。

設備投資額

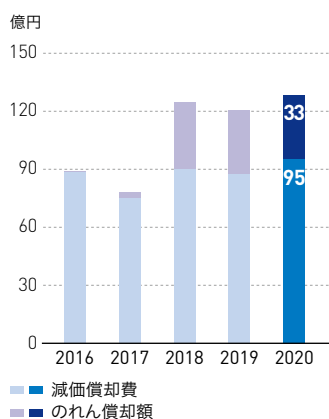
129億円



吾妻工場(群馬県)の剥離フィルム塗工設備の増設や温室効果ガス削減対応設備の導入、米国・マディコ社の経営合理化に伴う生産拠点の再構築などにより、設備投資額は129億円となりました。

減価償却費／のれん償却額

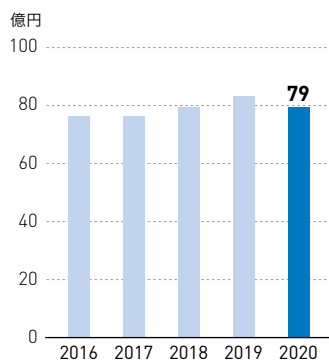
減価償却費
95億円
のれん償却額
33億円



減価償却費は95億円となりました。のれん償却額は、2016年末のマックタック・アメリカ社の買収に伴うのれん償却を中心に33億円となりました。

研究開発費

79億円

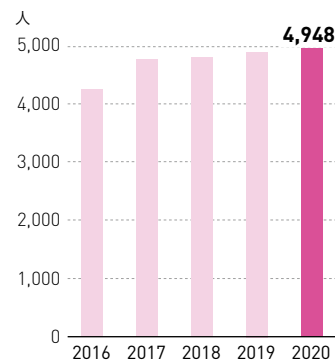


研究開発費は79億円となりました。内訳は印刷材・産業工材関連で29億円、電子・光学関連で37億円、洋紙・加工材関連で13億円となっています。

非財務情報

従業員数

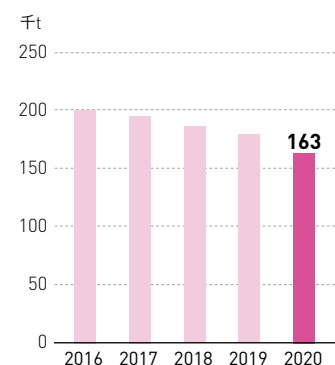
4,948人



連結従業員数は前期末比60人増の4,948人となりました。なお、リンテック単体の従業員数は2,584人となっています。

CO₂排出量

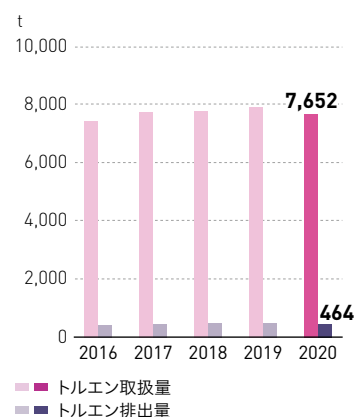
163千t



各生産拠点における環境負荷低減に向けた新規設備の導入や生産量の減少などにより、CO₂排出量は前期比16千t減の163千tとなりました。

トルエン取扱量／トルエン排出量

トルエン取扱量
7,652t
トルエン排出量
464t



主に粘着剤・剥離剤の塗工工程で使用される揮発性有機溶剤であるトルエンの取扱量・排出量は、製品の無溶剤化の推進などにより、前期に比べ減少しました。

1年間の主な動き

2019年4月から2020年3月までの当社グループの主な取り組みや新製品などについてご紹介します。

CORPORATE

会社情報

1 6月28日

リンテック・アドバンスド・テクノロジーズ
(台湾)社の新棟が竣工

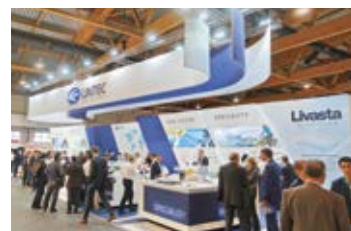


2 9月12日

東京ドームでのプロ野球公式戦に東京・板橋区在住の障がい者の方や少年野球チームの小学生などを招待

3 9月24～27日

ベルギーで開催された世界最大のラベル関連展示会「ラベルエキスポ・ヨーロッパ 2019」に出展



2019

4月

5月

6月

1

7月

8月

9月

2

3

A

B

C

D

PRODUCTS

製品情報

A 5月29日

植物由来の原料を粘着剤に使用したラベル用粘着製品に、無溶剤タイプの新アイテムを追加発売



B 6月1日

ミドルグレードの自動車用ウインドーフィルムを国内外で標準ラインアップ



C 7月1日

ラベル用粘着製品のグローバルブランド「Livasta」を立ち上げ

Livasta

D 7月1日

植物由来の原料を粘着剤に使用したラベル用粘着製品に、低温環境対応の強粘着タイプを追加発売

**IRメール配信サービスをぜひご利用ください。**

当社では、株主・投資家の皆様へ決算情報や新製品情報などのニュースを幅広くお届けするため、IRメール配信サービスを実施しています。ご希望の方は当社ホームページのIRサイトよりご登録ください。右記の二次元コードから簡単にアクセスいただけます。

**4 10月27日**

東京・板橋区在住の障がい者の方や地域の方などを対象にジャズコンサートを開催

**5 11月30日**

障がい者の方などをプロ野球観戦にご招待する取り組みなどが評価され、「東京都スポーツ推進企業」の認定を5年連続で取得

**6 12月19～22日**

「第88回 全日本フィギュアスケート選手権大会」に協賛

7 2月13日

米国子会社であるマディコ社の新本社工場(フロリダ州)への移転が完了

**2020****4**

10月

5

11月

6

12月

1月

7

2月

3月

E**F****G H****E 11月1日**

大判デジタルプリント用粘着シートに再剥離タイプの新アイテムを追加発売

**F 1月29日**

金属調でありながら透明感のある特殊蒸着ラベル用粘着製品を発売(写真左)

**G 2月3日**

表面基材に再生PET樹脂を100%使用したラベル用粘着製品を発売

**H 2月3日**

植物由来の原料を表面基材に使用したラミネートフィルムを発売